

公益社団法人宇都宮青年会議所  
2015年度 第5回 常任理事会議事録

日 時：2015年 5月 14日（木）20：45～22：00

場 所：コンセーレ 大ホールB

出席者：

（ 理 事 長 ） : 須山（敬称省略 以下同）  
（ 直 前 理 事 長 ） : 村上  
（ 副 理 事 長 ） : 澤畑、福田（之）、廣田、太城  
（ 専 務 理 事 ） : 金  
（ 監 事 ） : 篠崎  
（ 担 当 常 任 理 事 ） : 羽石、飯野、鈴木  
（日本 JC 委員会特別委員長） :  
（ 会 員 拡 大 特 別 委 員 会 ） : 小瀧  
（ 法 令 会 計 審 査 局 局 長 ） : 豊崎  
（ 事 務 局 局 長 ） : 飯沼  
（ 代 理 出 席 ） : 亀井

1. 開会宣言 <金>（役職名省略 以下同）
2. JCI クリード唱和 <割愛>
3. JCI ミッション並びに JCI ビジョン唱和 <割愛>
4. JC 宣言文朗読並びに綱領唱和 <割愛>
5. 関東地区宣言唱和 <割愛>
6. 出席者の確認 <割愛>
7. 議事録作人の指名 議事録 <総務委員会>
8. 前回議事録の確認 <金>
9. 議題並びに資料の確認 <飯沼>
10. 2015年度理事長挨拶 <須山>

皆さま臨時常任理事会、臨時理事会とたいへんお疲れ様でございました。急な案件のために総会をしなければいけないということもあり、タイトなスケジュールの中で、総務委員会の皆さまにおかれましても御礼を申し上げます。

常任理事会、気持ちをきりかえてですね、本年の私たちの例会、事業を構築していくために忌憚のない意見をどんどん出していただいで、よりよい中身にしていければと思います。

### 1 1. 直前理事長挨拶

1年に何度かこういったハードなスケジュールがあるのですが、今回は第5回常任理事会ということで、しっかりとときりかえていただいて、忌憚のない意見を出しあってよりよい事業の構築をしていければと思います。

常任理事の皆さんがどれだけ委員会に心を砕いているか、面倒をみているかという表現が適切なのかどうかはわかりませんが、議案をみせていただいているのですが、率直に、いまひとつ広がりがないなあと感じております。JCはやっぱり未来をみつめてしっかりとした事業を構築していかないと、運動になっていかないのですね。常任理事としてしっかりと、委員長の皆さんに指導ができているのか、心を寄せながら未来をみつめているのか。そういったところ心がけていただきたいと思います。細かなところは議案のところで話をしていきたいと思っておりますが、次年度の案件も報告であがってきております。ちょうどこの時期からしっかりと事業を盛り上げていかないといけませんし、来年のため、未来のためにもしっかりと今踏ん張ってですね、委員長の皆さんを育てていただきたいと思っております。活発な意見が飛び交う常任理事会になることを、心から期待しております。

### 1 2. 役員報告

鈴木常任より、天皇祭のご案内と食育事業のご案内。  
金専務より、6月地区フォーラムのご案内。

### 1 3. 協議事項

#### 協-1 6月 法令会計例会 開催計画並びに予算(案)について 協議資料に基づき、豊崎局長より上程文の読み上げ

<鈴木> チラシなのですが、今回カラーから白黒にされておりますが、白黒になりますとカラーと比較して読みにくい箇所がありますので、デザイン、レイアウトを検討ください。あとホームページのバナーなのですが、精度が低いように感じますので再検討をお願いします。

<豊崎> ご指摘のとおり再考させていただきます。

<村上> 質問なのですが、議案をみると自治会の参加率ですとか、選挙の投票率についてあがっておりますが、これはリーダーになったら自治会の参加率や、選挙の投票率があがるという、関係性を説明していただいてもよろしいでしょうか。

<豊崎> 本例会はリーダーシップを学ぶということを主眼とさせていただいております。リーダーとなる人財は当事者意識だとか、自分が成長したいという意識の高い人たちであると考えております。そういう人たちは自分の地域に関心が高く、自治会や選挙など、自分の地域に関係のあることに携わっていくものであると考え、このような表現をさせていただいております。

<村上> リーダー研修に参加する人で考えると、リーダーの立場である人しかこないじゃないですか。常にリーダーの立場である人、たとえば会社の経営者だっ

たり、自治会だったら会長であったりとか、役職についている人はリーダーシップの勉強をしようと思ってリーダー研修を受けるわけですね。たぶん、私の妻がリーダー研修に声をかけられてもいかないと思うのですね。なにがしたいのかというと、案内などにそれらのことがうまくつながるような文言、殺し文句といいますか、を入れないとまずいと思うのですね。ターゲットは、背景をみるとリーダーの方ではなく一般の方ですね。一般の方にこの話を聞いていただいて、リーダーとしての意識や当事者意識を高める、というのが狙いなので、そのあたりを考慮していただきたいと思います。

<羽石> 意見なのですけども、参加推進方法は主にチラシの配布になってくると思うのですけども、イベントの案内が無料で登録できるサイトもあるかと思うのですので、そういったものも調べていただいて、出来る限り多くの人に周知していただければと思います。

<豊崎> 5月審議後ということで、宇都宮市内の方を調べさせていただいてその方も配布先の中身とさせていただきたいと思います。

<飯野> 案内文の中でFAX番号が異なる場所が見受けられますので、それも含めてひとつとお見直しをしていただければと思います。

<須山> 動員計画に不安があるという感じを受けています。基本チラシで、一般市民に対して5項目ありますが、これで180人いくのかなという部分と、チラシの配布先で県内の青年会議所にもまくと思いますけども、そのあたりの見込み人数が参加員数計画に含まれていないかなど。そこはしっかりと反映していただいて、参加推進方法と動員計画をつめていただきたいと思います。このままだと180名の達成ができるかどうか不安ですので、委員会の方でよくもんでください。

#### 協-2 7月 メディア例会 開催計画並びに予算(案)について 協議資料に基づき、飯沼事務局長より上程文の読み上げ

<亀井> 144名に対して80%ですから116名ということでお願いします。

<小瀧> 背景の中に目的が含まれているように感じます。事業目的の対外のところと背景が同じようになっていると思います。

<金> 事務局長、書き方、表現を工夫していただきたいと思います。

<鈴木> 背景なのですけども、若年層が大都市へ流出しているからとありますが、誰が今以上に魅力あるまちへ発展させていく必要があるのか、ということですよ。それに対してこの事業は大学生を多く呼ぶと。私たちがこの事業をおこない、大学生にこのまちの魅力を伝えることが人財の育成になり、大都市への流出を防ぐというかたちでしょうか。そのあたりをお聞かせください。

<飯沼> 事業の対象者といたしましては、もちろん大学生も主なところで考えており

ますが、主婦層、サラリーマン層など万遍なくいきたいというふうを考えております。大都市への流出を防ぐというところのニュアンスではなく、まちづくりを担うような人の絶対数が少ないというような現状の問題点を提起させていただき、実際にこの地域にいる人、東京にいる栃木出身の大学生なども対象にして、まちづくりに対しての意識を高めていただきたいというところで考えております。

<村上> 背景と目的に違和感があるのですね。たぶん手法が間違っているのかなと、結果的にですが。所信に記載されているキーワードを拾うというのもあると思いますが、なににせよ人財の創出、育成をやればいい、というふうにみえます。なので、もっと膨らませないといけないと思いますし、理事長が所信の中で使っている表現の先には何があるのかというところを、もう少し紐解いていただきたいと思います。理事会までにはもう少ししっかりと背景、目的にしてほしいと思います。

<羽石> 配布先リストについてなのですが、栃木県庁に20枚配布して動員目標1名となっていますが、こういう表記をする意味があるのかなと違和感を覚えます。またクラウドファンディングというところで、新しい領域、ビジネスの分野になってきておりますので、市役所、県庁などに配布するよりかは、大学だとかのこういった領域に敏感なところにもっと重点的に配布をするべきかと思います。あと一つひとつの配布先に対してもっと具体的にイメージして進めていただけるとよろしいかと思います。意見です。

<飯野> この例会を受けた方が齋藤隆太さんの会社に仕事をお願いする、というような営業活動になってしまうような側面がでてしまいますと公益事業の面からよろしくありませんので、ご注意をしていただければと思います。意見です。

<村上> クラウドファンディングはキャッチーなところだとは思いますが、ターゲットが誰なのかという感じがするのですね。議案をみて講師の資料などをみると、なるほど、おもしろそうだなと思います。ただ、市民の皆さまは議案をみることはできないじゃないですか。齋藤隆太さんが何をされているかもわからないわけですね。クラウドファンディングという興味を持つのはビジネスマンだとか会社の経営者だとかだと思います。でもクラウドファンディングでまちを、地域を変えられるのですよね。そこを考えたときに、チラシだとかのPRをする部分で、そこがしっかりと伝わらないと。伝えることができれば、興味を持つ人は来て、クラウドファンディングの話を聞いてまちが活性化するというねらいどおりにいく可能性は秘めていると思うのですね。ですので、ターゲット、チラシ、PRの手法をしっかりと考えていただきたいと思います。

<須山> いくつか聞きますが、FAVVOって何ですか。

<飯沼> 齋藤隆太氏が作り上げたクラウドファンディングのプラットフォームの名前です。

<須山> 求めていたものとは違う答えですね。FAVVOのホームページをみると地域とクラウドファンディングをまぜて、まちづくりをやっているということで、非常にこの方はすごい方なのですね。それを踏まえた上で、この例会をどのように発信していくか、集客の部分になりますけども、このチラシの意味がわからないな、と。このイラストも含めてどうなのかな、と。現状伝わりにくいなと思います。FAVVOという非常によい取り組みをしているものが、市民の方とかメンバーの方に伝わりにくい。このイラストも何を表現しているのか、地域とアイデアが未来を変えるというところを表現しているのかと思いますが、わかりにくいかと。もう少し検討していただけると。おそらく、齋藤隆太さんの中身の部分まで入り込めてないかという気がします。講師選定でなぜこの人になったのかという部分で、取り組みがよいからだと思いますが、そのあたりが議案に落とし込まれていないのだと思うのですよ。なので、何を皆さんに伝えたいかという、一言でいうとクラウドファンディングではなくて、この方のやっているこういうことがよいのですよという部分がもう少しだせた方がよいのではと、思います。

協一 3 9月 青少年ダンス事業 開催計画並びに予算（案）について  
羽石常任より2回目の上程のため変更点の読み上げ

<金> 質問なのですが、対外配布資料が6月1日に発送予定とありますが、こちらは手順に則って申請はあげていますか。私のところにはあがってないと思いますが。ですので、こちらの方は、6月1日の発送はいたしかねますので、お願いします。

<豊崎> 事業概要や事業計画のところ過去5回のダンス事業の検証とありますが、こちらの方はどのように考えておりますか。

<羽石> 過去5回の検証というところで、こちらの方は議案には反映されておられません、前段で流れを説明しようかと考えております。具体的な資料等の作成は現状考えておりません。

<亀井> 今回、審査のところを紅白でおこなうというところで、入場者に赤と白の用紙を渡して、ということなのですが、途中入場、退出の方への対応はどうお考えでしょうか。

<羽石> 紅白の審査のところなのですが、こちらも議案に反映できておりませんが、現状は時間を区切って審査をおこない、最終的な集計をだそうと考えております。

<金> ポスターはいつ作成できますでしょうか。

<羽石> 理事会までには間にあわせませす。

<村上> 議案が読みにくいな、と感じます。事業のことがひたすら記載されていてポイントがつかみにくいな、と。こども紅白とありますが、参加推進方法に高

校とありますが、高校生も含むのですか。

<羽石> はい。高校生も創作ダンス等にジャンルをひろげて対象に含んでいます。

<村上> 高校生にこども紅白ダンス合戦にでてくださいとって、でてくれますかね。こちらは委員会に持ち帰っていただいて、あと協賛で宇都宮動物園がでてくるのはなぜなのかな、と。宇都宮動物園が協賛する代わりに子どもを動物園によびたいな、みたいなのビジネスライクな感じを受けるのですけども。どうでしょうか。

<羽石> 宇都宮動物園なのですけども、委員会がわんぱく相撲に関わりがあるというところと、過去にダンス事業でもお世話になっているというところで、今回もお願いをしたいという考えで記載をさせていただいております。

<村上> あまり、営業に傾かないように気を付けていただきたいと思います。あと、心配なのが動員の部分なのですね。今までだとストリートダンス選手権というかたちでしたよね。ストリートダンス選手権は宇都宮一を目指すわけですよ。優勝したら宇都宮一になれる、だから出場するのですね。紅白になった場合に、みんな紅、白にわけられるわけで、そこに帰属意識がないので、そこで争いたいと思うのかという話だと思うのですよね。その合戦にでたいのか、というところで難しいのではと感ずるわけです。紅白をやめろという話ではなくて、集客をする段階で出場したいと思わせるようなストロングポイントをつくっていかないと、事業自体が難しくなると思いますので、そこをしっかりと作り込んでいただきたいと思います。

<鈴木> 意見と対応の部分で質問なのですが、意見2番項と7番項の対応の整合性がとれていますか、というところと、意見11番項のチーム同士のコミュニケーションを持たせる対応が景品というのは違うのかなと思いますがどうでしょうか。

<羽石> 意見2番項については、紅白にチームを分けるというところでの審査法がありませんでしたので、それに対しての対応として記載させていただいております。意見7番項なのですけども、今回審査員が多ジャンルのダンスへの対応が必要というところで、偏りがないようにというところでこのような対応をさせていただいております。意見11番項につきましては、まず午前に出場したチームが最後まで残っていただけるかというところを委員会として重要視しまして、審査も含めてですけども景品という手法を選択しました。そして最後まで残っていただく中で、紅白それぞれのチームの一体感ができるのではないかと考え、記載させていただきました。

<鈴木> 意見11番項の件ですが、それは逆だと思うのですよ。紅と白のコミュニケーションが確立したから、最後まで残ってもらえる、という考えでなければいけないと思いますし、最後まで残ってもらうために、ではなく、その結果最後まで残っているというかたちをつくらなければまずいと思います。あと、赤白の用紙の件なのですけども、最終的に赤と白の人数が平均をとれないと

まずいと思いますので、そのあたりも委員会で検討してください。

<飯野> 今回ダンス合戦ということで、競技性をさげてそのかわり多くの人たちに参加していただくという趣旨だと理解しております。これまでの出場者の方を考えますと非常に真剣にダンスに取り組んでいる方が参加をしております、負ければ涙をするし、勝っても涙をするしということで、真剣な出場者が多かったと思います。今回の募集要項や申込書をみますと、今回の趣旨に見合っているかというところで、しっかりと伝わるようにしていただきたいと思います。あと、今回高校の方に声掛けをされるかどうか、これから委員会でも検討されると思いますけども、高校を訪問されるときに、個別に訪問するよりも校長会をおさないといけなかったと思いますので、そのあたりの手順も確認をしていただきたいと思います。

<鈴木> 開催日の9月5日の前後1か月にあるダンスイベントはどのくらいありますか。

<羽石> 把握できておりませんので確認します。

<鈴木> 前後1か月に他のイベントに参加している団体は、本事業に参加がしにくいかもしれませんので、そのあたりも考慮ください。

<小瀧> 紅白のわけ方はどうなっていますか。

<羽石> 委員会では案の段階なのですが、大枠でダンスのジャンルでわけていこうと考えております。

<須山> 何を持って成功だと思いますか。

<羽石> 参加した子ども達が来年も参加してくれたら成功かと考えております。

<須山> それが議案のどのあたりにあらわれていますか。

<羽石> 議案上にはまだあらわれておりません。

<須山> 議案上にあらわしてください。

#### 協－４ 第113回通常総会 開催計画並びに予算（案）について 協議資料に基づき、飯沼事務局長より上程文の読み上げ

<鈴木> 場所は大谷でなくて大丈夫でしょうか。なにをいいたいかといいますと、今回コンサーレで実施されますよね。昨年度の大谷と比較して出席率の面のことになってくるのかなと。アプローチの仕方等もかわってくると思いますが、場所によるちがいを検証していただきたいと思います。

<亀井> 特段ございません。

<須山> 特段ございません。

協一 5 第31回わんぱく相撲全国大会 開催計画並びに予算（案）について  
協議資料に基づき、羽石常任より上程文の読み上げ

<鈴木> 予算の件なのですけども、交通費がたぶん新幹線代のみとなっていると思うのですけども、当日は両国から各部屋への移動に電車を利用すると思いますので、そのあたりも考慮してください。

<村上> これはお願いなのですけども、宇都宮JCとしての事業として子どもを預かっていくわけじゃないですか。理事長が行けないのは宮まつりとかぶっているからだと思いますが、理事長のかわりはやっぱり副理事長だと思っただけなんですけども。検討していただきたいと思います。

<金> 現状、同行者に4名の名前があがっておりますが、この4名を選定した理由はあるのでしょうか。

<羽石> 私が担当常任として、委員長も責任者としていくかたちとなります。幹事と委員なのですけども、当日宮まつりの方もございましたので、運営幹事、会計幹事どちらか1名、委員は経験というかたちで1名とさせていただきます。

<飯沼> 事業目的の対内なののですけども、メンバー益につながっていないように感じます。せっかくいくのであれば、特に委員の石川君には何か感じてきてほしいと思いますので、そういったことも目的に記載してほしいと思います。

<小瀧> 1日目の研修事業は何をするのですか。

<羽石> 確認します。

<須山> 特段ございません。

協一 6 9月 50周年準備例会 開催計画並びに予算（案）について  
協議資料に基づき、飯野常任より上程文の読み上げ

<篠崎> 背景に関してなののですけども、創始の精神と記載ありますが、創始の精神の意味を教えてくださいませんか。

<飯野> 創始の精神につきましては、設立趣意書に記載されているものが創始の精神に該当すると考えております。

<篠崎> そこが、ハンドブックをみないとでてこないというのが、事業構築準備段階なのかなと思いますので、委員会の方でも創始の精神とはなにか、設立趣意書とはなにか、というところからはじめていただきたいと思います。



- <羽石> 第1部のパワーポイント画像が15分という時間がありますが、宇都宮JC 48年間の運動の流れを15分間で説明しきることができるのでしょうか。
- <飯野> 15分間でまとめるというのは難しい面もあるかと思いますが、逆にどれだけ時間を割けばよいのかという問題もごさいます。例会全体の流れを考えますと、まずは15分の中でまとめられる大きな項目をピックアップしながら、全体の流れが可能な限り捉えられるような資料を作成し、また説明ができるようにと考えております。
- <小瀧> ワークショップのお題が、宇都宮JC 50周年と将来の運動をより良いものにするためには、となっておりますがちょっとざっくりしすぎていて、どういもののがより良いものなのかとか、わかりにくいかなと思いますので検討をお願いします。
- <飯野> もう少し具体的にすべきか持ち帰って検討します。
- <村上> まったく未来がみえないかなと思います。目的にあるメンバー意識の高揚を図るといのは、メンバーとしての意識を高揚か、メンバーの意識を高揚かわかりませんが、意識を高揚するのがこの例会の目的なののでしょうか。あと、概要をみますと15分で48年分の検証は難しいかと思ひます。講師の渡部先輩は40周年の時の議長なのですけども、10年前の時の先輩を呼ぶといのは、たぶん過去の思い出話になると思ひますね。僕でもそうなると思ひますけども。これは設営とか、その時どういった手法で40周年を作り上げたのかというお話はしていただけるかと思ひますが、それしかないともいえるわけですね。未来を考えられる話になるかとか、メンバーの意識があがるかといったら、ちがうと思ひますよね。こういった講師で進めて、ワークショップをおこなって、来年の50周年にむけて、というふう意識があがるかといったら、間違いなくあがらないし、下手をすところないかと思ひます。厳しいですけど。基本的にこの議案は、すごくやっつけ感が満載じゃないですか。そして報告、次年度への報告へ反映しますとありますが、報告は後で作成するみたいな話なのだと思ひますが、じゃあこの委員会は予定者から9月までいったい何をしていたの、という話なのですね。9月は次年度が立ち上がっている時期ですよ。50周年の担当委員会が何をやるか9月には決めるわけですよ。そのタイミングでこの例会をやるというのは、理事長がはじめに予定者の段階で事業計画をたてた時に、このタイミングでこれをやる意図があるわけです。この委員会にとってはここが集大成であって、ここで1年間やってきたことを伝えることができなかつたら、来年の委員に伝わらない。ここで全部伝えなければ、準備委員会をやっている意味がない。あとで報告しますといのはいいわけで、ここがメインの事業なので、ここでメンバーに来年の50周年、どんな未来があるかといことを伝えなければいけません。常任理事が委員会をしっかりと指導して頑張っていたきたいと思ひます。あと予算が相当余っていますよね、22万も余るかたちになっていますが、なぜ使い切ろうと思わないのでしょうか。そういう視点もあわせて考えていただきたいと思ひます。
- <須山> 委員会のやりたいことが伝わりにくいかなと思ひます。あと検証の部分ですね。

過去48年のLOMの活動をどのように要約するかというところ、そもそも要約のしようがあるのかなと思います。やはり50周年につながるような資料を作らなければならないと思いますので、このあたりをどうしていくのか検討をお願いします。

協一 7 8月 宮まつり例会 開催計画並びに予算(案)について  
協議資料に基づき、鈴木常任より上程文の読み上げ

- <羽石> 背景の3行目にあります不易流行の精神を持ち市民協働で魅力あるまちづくりが、とありますが、どういったイメージでしょうか。
- <鈴木> 市民一人ひとりにこれからも愛され続けていくふるさと宮まつりであるために、旧弊にとらわれず、いつまでも変化しない本質的なものを忘れずに新しいものに挑戦することによって魅力あるまちづくりにつながるのでは、ということでございます。
- <小瀧> 旧弊にとらわれず不易流行の精神を持ちとありますが、不易流行の精神があらわれている新しいものというのはこの議案のどこに見受けられますか。
- <鈴木> 事業内容のところにあります、第22回宮っこみこしの中で、本年はルート変更をさせていただきます。
- <小瀧> 宮っこみこしのルート変更は市民のニーズであるということですか。22回の中で誰かから何かをいわれて、これこそが市民が求めている宮まつりの新しいものなのだ、というのがわからないので、そこを教えてください。
- <鈴木> これが市民のニーズを的確にとらえているかはわかりませんが、このきっかけ、かたちを作り検証を重ねていくことで宇都宮市民にとってのニーズが明確になっていくことを目標にさせていただいています。
- <金> 出向者会議の件が記載されておりますが、今までとどう違うのか教えていただけますか。
- <鈴木> 本年度は各委員会から2名の責任者を決めていただいて、出向者会議後に必ず委員会に持ち帰っていただいて、さらに話し合っていたきたい、というのが本年度のかたちでございます。3回目の会議の前に委員会のメンバーが各委員会に伺って質問や不明点をお聞きし、それにお答えさせていただいて調整をしてこうと考えております。
- <金> なぜそのようにしようとしたのか、というところもご説明ください。
- <鈴木> 過去の出向者会議において、一方的な説明になりがちで本当に理解されているのかわかりにくいところもありましてこういうかたちをとらせていただきました。
- <村上> 予算総額6,862,000とありますが、予算書と数字が違うところの説明をお願いします。

<鈴木> こちらのミスでして、本年度の寄付金の収入がなかったもので、去年の寄付金の収入をぬいたかたちでして、間違ったかたちになっております。次回の理事会までには修正させていただきます。

<村上> 気を付けていただきたいのは、去年も話が出ていたそうですし、去年は県の監査がありましたよね。例会の予算において明確になってないところがあると指摘をされているわけなのですね。例会としての予算と議案の整合性をつけなければ組織としてまずいですし、寄付金につきましても議案の中にしっかりと反映をしておかなければいけない。設営に対する日付も1日、2日じゃなくその前にやるわけなので、そのあたりも明確にしておかなければならない、ということです。あと、業者の選定理由だとかのところもしっかりと整合性がとれるように、慎重に進めていってください。

<亀井> 先ほどもありましたけども、背景の中に今後10年後を見据え市民のニーズを的確にとらえ、とありますが、こちらから提案をして検証をしていくのは良いことだと思いますし、また40年という節目に10年後を見据えるという考えも素晴らしいと思います。今回、この節目の年に市民のニーズをとらえるような、アンケートだとかの試みは何かお考えでしょうか。

<鈴木> これだけの規模になりますとアンケートは難しいのですが、宮まつりが終わった後に多方面からの意見、感想等をいただきますので、それをまとめて次年度へつなげていくことを考えております。

<亀井> お話を聞いてアンケートは確かに難しいと思います。こちらから提案すること、挑戦することはすごく大切だと思います。みこしはすごく伝統的なもので変えられそうで変えにくいものだと思います。できればその場でなにか意見等を聞くことができるちょっとしたものがあればと思ひまして発言させていただきました。

<澤畑> なぜ参加員数計画のところに参加推進方法が記載されていないのかという点と、参考資料の16番と本年の工夫と期待される効果の違いの2点を教えていただきたいと思います。

<鈴木> 参加推進方法につきましては次回の理事会までに記載をさせていただきます。参考資料16番の第40回ふるさと宮まつりの大きな変更点は本年の工夫と期待される効果の中身をより詳しく記載させていただく予定となっております。

<澤畑> 参考資料16番が工夫と効果と同じ内容であれば記載しなくても良いかと思ひます。意見です。

<小瀧> 宮っこみこしのチラシのところに記念品のプレゼントもあるよ、と記載されておりますが、記念品は何をプレゼントするのでしょうか。

<鈴木> 記念品のプレゼントにつきましては木札となります。

- <小瀧> 私は去年本部で宮っこみこしの受付をしていたのですが、チラシの方にはハッピーの数には限りがあります、とあるのですが、遅く来ていながら怒る親がいますね、ハッピーの数をなんとかする方が市民のニーズなのかな、と思うのですが。意見とさせていただきます。
- <飯野> 山車がでるかと思うのですが前回は3基だけの山車でなかなか寂しいかたちとなってしまったのですが、今回の見込みはどうでしょうか。
- <鈴木> 宇都宮市内23基の団体にお声掛けさせていただいておりますが、現段階で3基の見込みとなっております。なんとか頑張りたいと思います。
- <飯野> なんとか寂しいかたちにならないような設営をお願いいたします。
- <金> 先ほどわんぱくの全国大会のこともありまして、同日だということなので、議案の方に羽石常任の名前も入っておりますので、そのあたりも注意していただいて進めていただきたいと思います。
- <羽石> 宮っこみこしのルートの変更のところなのですが、理由をもう少し詳しくお願いします。
- <鈴木> 対外的にもありますが、参加者と観客がより身近に感じる、また安全面を考慮してということがルート変更の理由の一つです。また、オリオン通りがルートに含まれておりますけれども、子どもたちが多いため日影が多いルートの方が好ましいと思います。あと子どもと親の距離も近くなるということも変更の理由です。
- <村上> 宮まつり例会のメンバーの出席率の目標が80%なのですが、例年90%以上をこえてくる例会なので、原則、議案の書き方で80%にしてくださいというのがありますけれども、それは原則として。これをみると例年90%以上の例会なのに今年は志が低いのかな、と誤ってしまいますので、そのあたり委員長にお伝えください。
- <須山> 気になる点を質問させていただきます。事業概要の2番ですね。本祭会場とサブ会場とありますがこれは誰が決めたのですか。
- <鈴木> 私の知る限りですと、本祭会場、本祭中4時から9時までの間の大通りが本祭の会場となっております、私たちの警備が至らない部分に関してはサブ会場という認識です。
- <須山> 何も定義がありませんので、目線がいたいな、という感じですね。サブ会場でやっている人たちにあなたたちはサブだよ、という感じにうつりますので。私は全部本祭かな、と思いますので。視点の問題なのか、今までの通例なのか。この色分けはどうかと思います。誰が定義付けをしているのかわかりませんが、私たちが色分けをしてはいけないと思います。参加する人、

市民の人、皆さん宮まつりを楽しみにしていますので、そこを意識していただきたいと思います。

#### 14. 報告依頼事項

報-1 2015年度 年間公式スケジュールについて

<金> ご一読ください。

報-2 2015年度 対外出向者について

<金> ご一読ください。

報-3 会費納入状況について

<金田> 未入金者残り4名です。各委員会で再度、催促をお願いいたします。

報-4 特別会員入金状況について

<金田> 変更ございません。

報-5 4月ビジター報告について

<佐藤> 資料をご一読ください。あと5月はわんぱく相撲がございますが、こちらはかなりビジターを呼びやすい例会なので皆さまの協力をよろしくお願いいたします。

<鈴木> 4月のビジター報告書に写真の添付のない方が3名いますので、対応をお願いします。

報-6 ビジター名簿について

<佐藤> ご一読ください。

報-7 その他  
特になし

#### 15. 監事講評

<篠崎>

本日の常任理事会ということで、私前回公務で来られなくて久しぶりの会になったのです

けれども1つ次の理事会から注意していただきたいところがあります。私も言われたことがあります。協議段階では慎重な協議が適切であるかといえば、そうではないと思います。協議段階であればきたのないご意見ですとかそういったところがいただきたいというのが筋かなあ、と思います。忌憚のない意見ということを私も調べさせていただいたのですけれども、タブーであるとか遠慮なしに、という意味なのですけれども実社会のなかで上司が忌憚のない意見を頂戴といった場合に普通の部下のものがそれにあやかって意見を言ってしまったら後で干されたりとか、そういう仕打ちがあるのですけれども、青年会議所は私たちみんな会議に行き明るい未来を作っていくためにやっているものですから、そういった意見がないと尻つぼみになってしまうと思います。忌憚のないご意見を頂戴するように次回の理事会、委員長またじょうてい者の皆さまには指導の方をしていただきたいと思います。そして、自由地区の議案の方をみさせていただいて率直に感じたところが全然若い、わからない、わかりづらいなんか手法でごまかしているのかなと言うのが見受けられる議案がありました。事業構築に関して最終的には動員につながるわけですけれども興味をもっていただいたりこの例会この少々好きになりそうという感覚をもっていただけたらそちらの方は動員につながらないと思います。動員をされた後は何かしら感動があればその後のもつづきますし、未来にもつづくとおもいます。そういったことも含めて挑戦無しきは感動無し、その先には何も見えなくなってしまう、もう少し努力が必要になりますのでご指導の方をよろしくお願ひしたいと思ひます。

17. 閉会宣言

<金>

公益社団法人 宇都宮青年会議所  
2015年度 第5回常任理事会議事録

議長：(専務理事) 金 克彦

議事録作成人：総務委員会